1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470100666		
法人名	有限会社　ヒューマン ・ ケア ・ ステーションみえ		
事業所名	グループホーム　　こんぺいとう		
所在地	三重県桑名市星見ヶ丘6丁目919番地		
自己評価作成日	令和　1年　9　月　20　日	評価結果市町提出日	令和2年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470100666-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　元　年　10　月　17　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所に理念に「地域の中でゆとりある人生をあなたらしく」を掲げ、それに基づき利用者それぞれにあった自分のペースで生活でき、願いや希望を踏まえながら家族のようなあたたかい関係を大切にしています。利用者からは勉強させられることも多く職員は知恵やパワーをいただいております。開設当初からの方も1名、また平均年齢も90歳、車いすの方も多く重度化していますが、元気にすごされています。利用者様を家族同様として今までに9名の方の看取りを行ってきました。建物は木造でぬくもりが感じられるバリアフリーになっている為、安心してリハビリ等ができるようになっています。安心した暮らしが出来るよう専門職としてアンテナをはり生活を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人"ヒューマンケアステーションみえ"の一角、1ユニットのグループホームで、同じ建物の中に通所介護と居宅事業所があり、利用者同士違和感なく溶け合っている。2階がグループホームであるが、食堂は1階にあり、食事の都度利用者は階下へ降りている。建物は幹線道路から少し入った高台にあり、眺めは良好である。事業所内は、1カ所で空調が全館コントロールされて、どこに居ても快適さが維持されている。地区の連合自治会長の強いリーダーシップのもと、地域ぐるみの防災訓練が実施され、防災意識が強く、推進会議のメンバーとして協力体制も出来ている。90代の利用者が多く、個別支援に努めており、利用者の穏やかな笑顔から、安心した生活を送っているのが伺える。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「ゆとりある人生をあなたらしく」が利用者が一文字づつ書いた習字が共有スペースに掲げられている。利用者が自宅にいるときと同様な生活ペースで、明るく笑顔がたえない暮らしを提供できるよう日々取り組んでいる。	利用者一人ひとりのペースに合わせた、自分らしい生活を送れるように個別支援をして、何事も無理強いはしないように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域のイベントの夏祭りなどには利用者とともに参加している。清掃や消防訓練も前は利用者と参加していたが、現在は難しくなり職員だけで参加している。子供SOS表示を掲げている。	地域で開催される夏祭りは地域ぐるみで参加する大イベントで、事業所も協賛金を出して協力をしている。利用者は全員が浴衣を着て参加をし楽しんでいる。ボランティアの来訪も有り、中学校3校の福祉体験学習の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヵ月に1回の運営推進会議に於いて、自治会長、民生委員の方々を交えて、議題を設けて話し合いの場を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を開催し、自治会長、民生委員、市の職員、利用者の家族などの方々に参加を集い、近況報告や自然災害緊急対策など話し合い関係を深めている。	隔月に開催しており、現況報告をするとともに意見交換の場となっている。最近は、身体拘束について、さらに自治会長の提案で防災訓練についての話し合いも活発に行われている。近くの介護施設へ避難する訓練も話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議以外にも、市の各種委員会に参画している為、窓口と情報交換している。	法人の代表は、市からいくつかの委員会のメンバーに委嘱されて、行政との関わりは密である。管理者はわからないことは、直接市の担当者へ聞くように努めて、市へ出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域の協力体制もあり、夜間以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止適正委員会を研修と共に運営推進会議で実施している。日中は玄関は施錠しておらず、以前、利用者がふらっと出て行き、近所の方が声掛けをして見守ってもらった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の講習・講演会で学んだことを、グループミーティングで公表し、議題として取り上げ、話し合いを設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近な見識者に自立支援や後見制度の事を学び、日頃の介護につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面をおいて十分なかつ丁寧に説明を行い、周りのスタッフに不安や疑問なことを尋ねることが、できるような雰囲気づくりを大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問が多く、担当職員が日頃の様子等など交え談笑ができ、その中で意見や不満など、どんなことでも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。	面会時に利用者の様子を伝えるとともに、意見を聞いている。また、月に1回請求書送付時にも、利用者の様子と共に職員がコメントを書いて送付している。介護計画書の更新にあたり、介護支援専門員からも電話等で家族からの意見要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティングを3ヶ月に1回のペースで持ち、意見交換を行っている。又、ノートを利用しスタッフ全員が随時、意見や提案を書き、いち早く活かすようにしている。	代表や管理者に、いつでも意見が言える体制である。職員全員が参加するグループミーティングは3か月に1回開催し、コミュニケーションがとられている。風呂に設備したリフト付きシャワーキャリーの導入は、職員からの意見が出て実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に立ち寄られ、スタッフの状況を把握し、現状をいちはやく察知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	高齢者福祉・地域福祉に経験豊かな代表者や管理者がスーパーバイザーとして勉強会などを開催したり、外部からの講師を招いたりしている。職員のキャリアや能力に応じた研修内容はミーティングなどで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会の研修会などに参加し、勉強会や見学会を通じて交流を図っている。近くのグループホームとは災害時の協力体制を構築している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思疎通がなかな難しいなかでも、寄り添い話すことで、なにかヒントを見い出しながら、本人の意思等を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等で差し支えがない程度で、スタッフも交え話しをし、家族の方々との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が希望されていることと、利用者の状態等から、事業所の支援できることを考え、充分な話し合いで対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の生活の中で人生の先輩でもある利用者に教わることも多く、ひとつ屋根の下で暮らす家族同然の関わりを築いている。一緒に食事を作ることは難しくなっているが、一緒に食事をとり、洗濯ものをたたんだりと関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族の方へ本人の近況報告を送り、面会の際にも、外出や行事の写真等をみていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各個人の部屋には、昔撮られた写真や家族の方の写真などが飾えられている。面会に見えた方には個人のお部屋にてお茶をのんで談笑でき、いつでも来ていただきやすい空間を提供している。	近所の人が訪ねてくれたり、昔なじみの美容院へ家族が連れて行っている。また、趣味で作った手芸作品が居室に飾られていたり、ミシンを使って雑巾を作ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や思いを踏まえた上で、利用者同士がいやすい場を提供し、寄り添いあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、病院先へ出向いたりして経過を把握し、引き続き相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、思いをくみ取り、可能な限り希望に沿うように努めている。又、困難な場合は今までの生活暦などから、スタッフ間や家族の方とで検討し、その方らしい暮らし方を模索している。	利用者の動作や顔色・表情・座り方などから、思いを察し、一人ひとりに声掛けをして思いを聴いている。居室や入浴で職員と1対1になった時に、ゆっくりと聞くことができ、業務日誌に記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの自宅で使用されていた馴染みの家具や思い出の品、家族の写真等を置き、今までに近い生活環境を提供できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カラオケをしたり、お昼寝をする方など、心身状態も把握しながら、ひとりひとりに合った過ごし方をして頂けるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者会議を開き意見を交換し、見直しを図っている。家族とも話し合いを持ち意向や思いも踏まえながら利用者一人一人にあった介護計画を作成している。	アセスメントをとり介護支援専門員が計画書を立案、SOAP（ソープ）シートを使って介護経過記録で毎日チェックをしている。月１回ミニカンファレンスで職員がモニタリングを実施している。医師には訪問診療の時に聞き、家族とは面会時や電話で確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	１日の流れがわかるよう時間帯別に気づいたことや状態などを記録し、勤務の引き継ぎの際などに漏れのないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望や状況に応じて通院等には柔軟な個別支援を行っている。音楽療法の参加や馴染みの場所への支援などを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校行事等に参加したり、夏休みには子供達が遊びにきてくれたりと、子供の関わりを通じ現役時代の思いを引き出し、現在の生活にいかせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のそれぞれの主治医と信頼関係を築いている。かかりつけ医の往診が月に2回あり、又昼夜を問わず相談できる環境であり、適切な診断や治療がうけられるように支援している。	協力医をかかりつけ医としている利用者は6名、従前からの医師をかかりつけ医としている方が3名ある。協力医は月に2回訪問診療があり、従前からのかかりつけ医は月に1回訪問診療がある。協力医は24時間いつでも対応が可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内のディサービスの看護婦に相談し、指示を仰いでいる。又、かかりつけ医の看護師と電話連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医との連絡を密にして、入院や退院日時などをきめている。往診時などに情報交換し相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族の希望を確認上、主治医とも相談してかかりつけ医・職員・家族の協力のもと支援している。（開設当初より9名の方が終末期を事業所で過ごされている。）	入所契約時に終末期に対しての意向を聞いている。ホームでの看取りも可能であり、すでに何人かの方を看取っている。そのうち数名は、ホームで葬式をした。終末期になると、医師から指示・指導があり、家族・職員で十分な話し合いをしている。ホームで最期を迎えた方は、家族がホームに泊り看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導による救急法を受講して、ミーティング時に全スタッフに申し送り、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を近隣の住民も参加していただき実施し、不備な点などの見直しを行っている。地域の避難訓練にも参加し、協力体制が得られるように働きかけている。又、夜間想定の避難訓練も行っている。	ホームの建物は耐震構造で外へ避難するより、一部屋でまとまる避難訓練を実施しており通報・避難・初期消火など消防署の指導を受けている。玄関に拡声器を置き、有事には近隣に知らせる準備もある。連合自治会長の指導で地区全体の防災意識は高い。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者ひとりひとりの尊厳を大切にした言葉かけや対応を行っている。個人情報の保護についても良く理解している。	尊厳を大事にする介護に努めている。呼び名を”ちゃん”付けにしない、他者に聞かせたくない時は場所を変える、居室の入り口に名札をつけないい、書類を広げぱなしにしない、等々配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と常に寄り添い、語り合うことで、思いをくみ取り、できるだけ自己表現できるように働きかけ導いていくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念「・・・あなたらしく」を念頭に置き暮らしの支援が日々行われている。職員間でも都合を優先するのではなく利用者に合わせ、寄り添った支援の意志統一がなされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時期に合った、その人らしいおしゃれを提供している。散髪もスタッフが会話をしながら、その人に合った髪型になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現状として一緒に準備や片付けは難しくなってきてはいるものの、お盆拭き、洗濯干し、洗濯物たたみなどできることを一緒に行っている。食事中も一緒に味わい会話を楽しみながら支援している。	献立は法人の管理栄養士がして、食材は職員が業者発注している。職員の手作り料理を提供し、職員も同じものを食べている。利用者の状態によってミキサー食・刻み食になるが、どんなものを食べているか、盛り付けにも配慮し、食事介助をしながら何をたべているのかを伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューをもとに季節の食材や利用者の食べたいものも含め、バランスの良い献立を提供している。食事量や水分量、塩分量などひとりひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入れ歯の洗浄、歯磨き、うがい、口腔内の残留物の確認を徹底している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれにあった時間で、トイレ誘導を行い排泄を促している。	日中はトイレで排泄するように支援をしている。夜間にはポータブルトイレを使う利用者もいる。夜中、熟睡しているのを無理に起こして排泄を促すことより、オムツを使用してしっかり睡眠をしてもらうようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立にせんい質の多いものを取り入れたり、水分を多めに取ってもらっている。歩行練習や入浴の際のマッサージにも取り組み、便秘予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の14時～16時に利用者の心身の状況やその時の気分、希望に合わせて、坪庭を有した明るい浴室での入浴の支援をしている。	入浴は、週に2～3回、午後の時間帯に実施している。浴槽は大きなステンレス製で浴室が広い。リフト付きシャワーキャリーの椅子が導入され、衣類の脱着・移動・浴槽への出入りなど、利用者・職員の負担が軽減された。入浴剤は使っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝も必要に応じて取り入れ、就寝時の空調も快適で眠れるよう適温に設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報リストやミーティングでスタッフが理解することで、体調の変化を察知し、素早い対応につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、出来る事・得意なことなどを十分理解することで、それを活かした楽しみ事や出番を発揮できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	裏庭にあるスペースで過ごしてもらったり、折々の季節を肌で感じてもらえるよう散策に出かけたり利用者の希望も踏まえ、買い物や外食をしたり外出の支援をしている。	事業所周辺が桜並木で、車椅子で散歩にも行ける。また、季節毎に桜見や藤、コスモスなど車でドライブを兼ねて観に出かけている。その帰りに、好物の回転ずしに寄っての食事も利用者の楽しみである。	利用者の希望を踏まえ、裏庭の利用や周辺の散歩を増やしたり、地域行事への参加や外食など外出機会を増やされることを期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状としてお金を所持したり使えたりできる方は見えない為、家族の方が必要に応じて出されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけることが難しくなっている為、かけたいと言われればスタッフが間に入り電話のかけはしをしたり、手紙のやりとりの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体の空調や換気は整備され、高齢者の生活に配慮が行き届いた共有空間である。季節の草花など随所に配置し、座り心地の良いソファーや椅子が置かれ居心地良く過ごせる工夫をしている。	建物全体が空調設備されて、快適で居心地の良さを感じる。トイレ掃除は特に力を入れて、全く異臭はしない。裏庭に梅や桜の木が植えられ、デイサービスと共有の場である。事業所内には植物や絵画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に座り心地の良いソファーや椅子を置き、利用者同士で語り合い、思いやりの持てる場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族も泊まれるスペースもある居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた物品を置き、本人の時間を大切に気持ち良く生活できるように工夫している。	居室は広さに若干差がある。それぞれに洗面台、クローゼットが設備されて、クローゼットは、衣類や寝具などが収納されている。テレビ、絵画、タンス、机、椅子など思い思いの物が持ち込まれ、自分らしい居室となっている。清掃も行き届いて清潔感を感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は木造で落ち着きとぬくもりが感じられ、フロアーはバリアフリーになっており、廊下を運動される方もみえ自立した生活を送れるよう工夫している。		